

JICA関係者限定資料

インド

---

任国情報

1999年

JICA LIBRARY



J1156307(9)

国際協力事業団

国際協力総合研修所

## は し が き

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大なご協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成12年3月

国際協力事業団  
国際協力総合研修所長



1156307 [9]

## 目 次

I 概 況 .....	i
II 生活事情 .....	1
1. 食生活 .....	1
2. 衣 料 .....	8
3. 住 宅 .....	9
4. 医 療 .....	13
5. 教 育 .....	17
6. 家庭の使用人 .....	21
7. 交通事情 .....	24
8. 通 信 .....	26
9. マスコミ .....	27
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ .....	28
11. その他のサービス .....	36
12. 観 光 .....	37
13. 治安、緊急時の心得 .....	40
14. 出入国手続きおよび帰国手続き .....	42
15. 私財の輸送、引き取り、購入 .....	44
16. 社 交 .....	47
17. 任国官公庁 .....	47
18. 在外日本関係機関など .....	48
19. 地方都市 .....	50

# I 概況

表-1: インド概況

正式国名	(和文) インド (英文) India (Bharat Ganarajya) *注1
独立年月日 旧宗主国	1947年8月15日*注2 英国*注3
政 体	共和制*注4
元 首	コチェリル・ラーマン・ナラヤナン (Kocheril Raman NARAYANAN) 大統領*注5
位置・面積	北緯8~37.10度 東経68.10~97.30度 3288千km <sup>2</sup> *注5
首 都	ニュー・デリー*注3
総人口	963.38百万人*注6
民 族	インド・アーリア族、スキト・トラヴィダ族、 モンゴロ・トラヴィダ族など*注7
公用語	ヒンディー語、英語(補助公用語)、17の地方公用語*注3
宗 教	ヒンズー教82.6%、イスラム教11.4%、キリスト教2.4%他*注8
暦	<日本との時差>-3時間30分*注9 祝 祭 日 (1999年) 1月1日 新年 1月19日 断食明け 1月26日 共和国記念日 3月 Holi 3月/4月 Ram Navami and Mahabir Jayanti 3月28日 犠牲祭 4月2日 聖金曜日 4月5日 イースター・マンデー 4月17日 Muharram (イスラム新年) 5月 Buddha Purnima 6月26日 マホメッド生誕日 8月 Janmashtami 8月15日 独立記念日 10月/11月 Dussehra, Diwali and Guru Nanak Jayanti 10月2日 マハトマ・ガンジー生誕日 12月25日~26日 クリスマス

出所 注1: 『国際協力事業団法令・規程集』

注2: 『世界各国要覧 9訂版』1998 東京書籍

注3: 『世界年鑑』1999 共同通信社

注4: 『インド概況』1999年10月 外務省

注5: 『世界の国一覧表』1998 世界の動き社

注6: 『The Europa World Yearbook 1999』1999 Europa Publications

注7: 『各国・地域事情と日本との関係』外務省ホームページ

注8: 『世界年鑑』1995 共同通信社

注9: 国際航空運送協会 (IATA) 調べ

## 1. 国土の概要

アジア大陸の南部、北緯8～37.10度、東経68.10～97.30度に位置し、西北はパキスタン、北はネパール、ブータン、中国、東はバングラデシュ、ミャンマーに接する。国土は世界で7番目に広く、日本の約9倍の3288千km<sup>2</sup>を有する。多言語、多民族、多宗教の多様性社会である。地勢的には北から順に大きく次の3つに区分できる。

- (1) インド亜大陸をアジアの他地域から遮断する天然の防壁を形成しているヒマラヤ地帯。
- (2) 北インドの大部分を占め、世界最長の大河であるガンジス河、およびインダス、ブラマプトラ各河川により潤い、経済的に最も発達している肥沃なインド・ガンジス平野地帯。
- (3) マハーナディ、ナルマダの2河川が流れる一部平野を北に、東西は海岸沿いの平野に囲まれた海拔1000mの高度からなる三角形の高原であるデカン地帯。

(参考文献)

- 『海外生活の手引き 南西アジア編Ⅱ』1987 世界の動き社  
『インド旅行案内』1990 インド政府観光局  
『国際情報大辞典』1992 学習研究社  
『世界文化情報事典』1992 大修館書店

## 2. 気候

気温、雨量とも地域により千差万別であるが、北インド平野部においては大きく次の3期に分けられる。

- (1) 11月～2月末の寒冷期（平均気温摂氏14.2～17.2℃）。
- (2) 3月～6月中旬の暑熱期（平均気温摂氏22.7～33.8℃）。このうち4月～6月中旬の酷熱期には摂氏47℃以上になる場合もある。
- (3) 6月下旬～10月中旬の降雨期（平均気温摂氏26.2～33.8℃）。この時期はモンスーン期で高温多湿である。

(参考文献)

- 『海外生活の手引き 南西アジア編Ⅱ』1987 世界の動き社  
『国際情報大辞典』1992 学習研究社

### 3. 人口

総人口（1997年）963,377,664人、人口増加率（1997年）1.98%。

主要都市人口（1991年現在）は、ニュー・デリー30万人、ボンベイ993万人、カルカッタ440万人、マドラス384万人、ハイデラバード315万人、アーメダバード295万人である。

（参考文献）

World Development Indications 1999 World Bank

The Europa World Yearbook 1999 Europa Publications

### 4. 略史

表—2：インド略年表

年	出来事
紀元前30世紀	インダス文明
紀元前15世紀	アーリア人が西北インドに侵入
紀元前3世紀	マウリア王朝が成立し第3代アショカ王が南端を除く全インドを支配（王の死後、王朝は滅亡）
4世紀末	ヒンズー教を中心としたグプタ朝の栄え
8世紀	イスラム教徒のインド侵入
1526年	イスラムのムガル帝国成立
1600年	英国が東インド会社を設立
1602年	オランダが東インド会社を設立
1757年	プラッシーの戦いで英国がフランスを破り、インド支配権を確立
1857年	セポイの反乱
1858年	ムガル帝国が滅亡、英国の直轄統治領となる
1877年	英国領インド帝国の成立
1885年	インド国民会議が設立
1886年	英国がビルマを合併
1920年	マハトラ・ガンジーらの反英運動が高まる
1947年 8月15日	パキスタンが分離、独立
1947年10月	カシミール帰属問題で第一次印パ戦争が発生
1948年 1月30日	マハトラ・ガンジーが暗殺され、ネルーが主導権を掌握
1950年	新憲法を制定、インド共和国が発足
1962年	中国との間に国境紛争が起こり、敗北
1964年	ネルーが死去、シャーストリーが首相に就任
1965年	第二次印パ戦争が発生
1966年	ネルーの長女インディラ・ガンジーが首相に就任
1971年	ソ連（旧）と相互援助条約を締結。第三次印パ戦争
1972年	バングラデシュが独立宣言
1974年	インド初の核実験を実施

1976年	パキスタンと国交を回復
1977年	総選挙でガンジー派の国民会議派は大敗
1977年3月	人民党のデサイ内閣が成立
1980年	総選挙で国民会議派が圧勝し、インディラ・ガンジーが政権に復帰
1984年	パンジャブ州で独立国家樹立を主張するシーク教徒過激派の本山、黄金寺院に対し軍事制圧を実施
1984年10月31日	インディラ・ガンジー首相をシーク教徒の警備隊が射殺
1984年12月	選挙でインディラ・ガンジーの息子のラジブ・ガンジーが首相に就任
1989年11月	総選挙で第2党の中道新党ジャナル・ダル (JD) のシン前国防相を首相とする内閣が発足
1990年10月	インド人民党 (BJP) は、北部アヨドヤのヒンドゥー寺院建設をめぐる対立から、シン政権支持を撤回
1990年11月9日	国民会議派の支持でチャンドラ・シェカール政権が発足。総選挙を実施
1991年5月20日	ラジブ・ガンジー元首相が暗殺
1991年5月21日	国民会議派長老のナラシマ・ラオが首相に就任
1992年7月	シヤンタル・ダヤル・シャルマ副大統領が新大統領に就任
1996年	総選挙で与党国民会議派は大敗し、ラオ首相は辞任、BJPのバジパイ総裁が首相に就任。しかし、中道・左派連合が内閣を不信任、内閣は13日で崩壊
1996年6月	中道・左派連合と地域政党17党からなる統一戦線のデーベ・ゴウダが首相に就任
1997年4月	ゴウダ内閣が総辞職。グジラル氏を首相とする第2次統一戦線政権が成立
1997年7月	大統領選挙を実施、コチュリル・ラマン・ナラヤナン副大統領が大統領に就任
1998年2、3月	下院総選挙を実施。BJPのヴァジパイ政権が成立
1998年5月	2回にわたり地下核実験を実施
1999年4月	ヴァジパイ内閣総辞職

(参考文献)

『世界年鑑』1999 共同通信社

『国別協力情報ファイル』国際協力事業団

『インド概況』1999年1月 外務省

## 5. 民族

大別して、インド・アーリア族、スキト・ドラヴィダ族、モンゴロ・ドラヴィダ族、モンゴロイド族、ドラヴィダ族、原始部族などである。

(参考文献)

『各国・地域事情と日本との関係』外務省ホームページ



## 6. 言語

公用語はヒンディー語であり、補助公用語は英語である。その他17の地方公用語がある。

(参考文献)

『世界年鑑』1999 共同通信社

## 7. 宗教

インドは宗教的要素が非常に強く、国民生活も言語も宗教的慣習によって営まれている。ヒンズー教82.6%、イスラム教11.4%、キリスト教 2.4%、シーク教 2.0%、仏教0.7 %、ジャイナ教0.5%となっている。

(参考文献)

『東南アジア要覧』1992 東南アジア調査会

『世界年鑑』1995 共同通信社

## 8. 文化

インドの文化は多様な民族、言語、宗教の影響を大きく受けている。

文学に関しては、その歴史は紀元前1500年頃インド北西部に侵入したアーリア人が信仰していたバラモン教の宗教文学であるベダ文学の時代から始まる。その後、国民的 2 大叙事詩といわれている『マハーバーラタ』『ラーマーヤナ』を経て、紀元前 4 世紀には大文典家パーニニによって古典サンスクリット語の基礎が確立され、次々と文学作品が生まれた。4 世紀に入ると、サンスクリット文学は詩聖カーリダーサの出現によって黄金時代を迎え、中世を通じてサンスクリット文学は興隆期を築き上げた。

建築としては、グプタ朝期のアジャンタ石窟寺院やムガル朝期のタージ・マハルなど各王朝時代に建てられたものが数多く残っている。

なお、現在インドでは、映画が庶民の間で最大の娯楽となっている。製作本数は年間800本を超えて世界第一位、観客も一日1000万人以上を動員するほどである。宗教、大家族制度、カーストによる差別など庶民生活に密着した社会的規範や問題を題材として取り上げているため、庶民の心をしっかりとらえている。

(参考文献)

『もっと知りたいインド2』1989 弘文堂

『世界文化情報事典』1992 大修館書店

『国際情報大辞典』1992 学習研究社

『世界の歴史と文化 インド』1992 新潮社

## 9. マス・メディア

### (1) 新聞

報道の自由は1950年の憲法によって保障されている。1993年現在、日刊紙は3805紙発行されている。読者は人口の1000分の21強である。

宗教、社会、言語の違いによる文化の相違から新聞の発展は妨げられてきたが、そうした中で教育を受けた都市の中流階級を讀者にもつ英字紙が全国で支配的な地位を保っている。特に有力な日刊の英字紙は、『The Times of India』（7都市で発行、71万1063部）、『Indian Express』（16都市で発行、54万3800部）、『The Hindu』（7都市で発行、47万8100部）、『The Hindustan Times』（2都市で発行、34万5900部）、『The Statesman』（2都市で発行、14万8400部）である。

主な現地語の日刊紙としては『Navbharat Times』（38万5500部）、『Rajasthan Patrika』（34万2900部）、『Hindustan』（デリーで11万2400部）、『Punjab Kesari』（61万3900部）、『Daily Jagran, Malayala Manorama』（74万8800部）、『Sandesh』（43万9186部）、『Sakal』（24万8900部）、『Ajit』（16万300部）、『Daily Thanthi』（36万456部）、『Eenadu』（55万8000部）、『Ananda Bazar Patrika』（45万8100部）がある。現地語による新聞の大多数は比較的発行部数が少ない。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

### (2) 放送

ラジオ放送は1927年に開始され、1930年に政府の監督下に置かれた。1959年、デリーにテレビ局が設立され、一般に向けた放送は1965年に開始された。1976年、テレビ放送は独立系となった。テレビのカラー放送は1981年に始まった。

1991年現在、UNESCOによると国内で約6850万人のラジオ受信者、3000万人のテレビ受信者がいる。

ラジオ局としては世界最大規模の放送機構である国営の All India Radioが国内の東西南北の4地域、168局を統括している。テレビの放送局は全国に20局あり、国営テレビのチャンネルは全国放送と首都圏の放送（主にヒンディー語）の他、11の地方言語によるチャンネルがある。1991年、衛星放送が導入され、1993年中頃には受信者が1880万人となった。1993年に国営テレビ局は、さらに5局の衛星放送チャンネルを設けた。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

『世界年鑑』1995 共同通信社

## 10. わが国との関係

### (1) 日本との外交関係概要

インド人の対日感情はたいへんよい。これを反映し、日印両国関係はインド独立以来きわめて良好で、経済・文化面での結びつきは年々深まっている。在留邦人数は、2019人（1998年10月1日現在）である。

(参考文献)

『世界各国要覧 9訂版』1998 東京書籍

### (2) 要人往訪

1980年	伊東外相
1982年	桜内外相
1984年	中曽根総理および安倍外相
1987年	徳仁親王殿下 倉成外相
1990年	海部総理
1992年	政府派遣経済使節団、桜内衆議院議長、秋篠宮・同妃両殿下
1994年	東政務次官、政府派遣経済使節団、海部元総理
1995年	橋本通産大臣
1997年	宮澤元総理（特派大使）、池田外務大臣
1997年	土井元衆議院議長（マザーテレサ国葬）
1997年	村山元総理

### (3) 要人来訪

1982年	ラオ外相 インディラ・ガンジー首相
1985年	ラジブ・ガンディー首相（1987、1988年にも来訪）
1986年	ティワリ外相（1987年にも来訪）
1988年	ラオ工業相
1989年	ヴェンカタラマン大統領 ラオ外相

1990年 アジット・シン工業相、ネルー商業・観光相、ヴェンカタラマン大統領  
1991年 シンハ蔵相  
1992年 ソーランキ外相、マンモーハン・シン蔵相、ナラシマ・ラオ首相  
1993年 マンモーハン・シン蔵相  
1995年 ムカルジー外相、ナラヤナン副大統領  
1996年 チダンバラム蔵相  
1998年10月 バーラヨギ下院議員、グジュラール前首相  
1998年11月 バクト工業相

(参考文献)

『各国・地域事情と日本との関係』外務省ホームページ

表-3: 経済指標 [インド] 統計年: 1997

GDP (百万USドル)	*注1	381566
1人あたりGNP (USドル)	*注1	370
実質GDP成長率 (%) (1990~1997年平均)	*注1	6.0
消費者物価上昇率 (%) (1990~1997年平均)	*注1	9.6
失業率 (%)	*注1	N.A.
貿易収支 (百万USドル)	*注1	-10752
輸出額(fob)		34076
輸入額(fob) (1998年)	*注2	44828
主要輸出入相手国 (1998年)	*注3	輸出: 米国 (20.6%) 輸入: 米国 (9.6%)
経常収支 (百万USドル) (1998年)	*注2	-6903
対外債務残高 (百万USドル)	*注4	94404
対外債務返済比率 (%)	*注4	20.4
外貨準備高 (百万USドル)	*注1	24688
為替レート (1998年末)	*注2	1USドル=42480ルピー
会計年度		4月1日~3月31日

出所 注1: World Development Indicators 1999 The World Bank  
 注2: International Financial Statistics Yearbook 1999 IMF  
 注3: Country Report: 4th quarter India 1999 EIU  
 注4: Global Development Finance 1999 The World Bank

## II 生活事情

### 1. 食生活

#### 1-1 食料

##### (1) 一般事情

一般の食料は豊富に出回っている。経口感染症の病原対策として、食物には十分に火を通してから食することが肝要である。また、野菜については、農薬、肥料などが付着していることがあるので、入念に水洗いするなどの注意が必要である。日本食品の入手は困難である。

##### (2) 主な食料の出回り状況

###### <米>

豊富に出回っている。一般に入手可能な米は、いわゆるインディカ米といわれる粘りけのない米である。中でも特に長い「バスマティーライス」が薫り高く、ピリアニ（インド風炊き込みご飯）や焼き飯に向いている。日本米の入手は不可能である。日本米に似たブータン産米（パロライス）は、一部のマーケットで入手可能である。

###### <パン>

食パンは、一般マーケット、菓子パンなどは主要ホテルで入手可能である。

###### <肉類>

鶏肉はマーケットで入手可能であり、インドでは最も食される肉である。マトンも豊富に出回っている。豚肉は鶏肉やマトンほど一般的ではないが、入手可能である。牛肉は、インド人の大多数を占めるヒンズー教徒が食さないため、入手はほとんど不可能である。ベーコン、ソーセージなどの加工品はある。

###### <野菜>

季節に限らず潤沢にある。日本野菜もほとんどあるが、一般的な野菜としては、ジャガイモ、トマト、カリフラワー、オクラ、ホウレンソウ、キュウリ、グリーンピースなど。最近では、白菜、ブロッコリー、ベビーコーン、アボカド、ズッキーニなども大きなマーケットに出回るようになった。

###### <果物>

バナナ、リンゴ、ミカン、マンゴー、ライチ、パパイヤ、ブドウ、西洋梨、プラム、イチゴ、スイカ、メロンなど豊富である。

###### <魚類>

ニュー・デリーで入手可能な魚類は、大半がボンベイなどから輸送された物であ

る。冬期（10～2月頃）にはマナガツオ、アジ、インドサーモン、エビなどが豊富に出回っており、鮮度も特に問題はない。ただし、酷暑期（4～6月）の魚類購入は、輸送状態に問題があるため避けたほうがよい。魚の缶詰についてはインド産ツナ缶は一般のマーケットで入手可能。

#### <乳製品>

牛乳、チーズ、バターなどは一般のマーケットで入手できる。

#### <調味料、食用油>

インド料理に多く使われる「マサーラー」は豊富にある。マサーラーは主に植物の実や種、根からつくられた香辛料であり、種類も多種多様である。日本の調味料は、醤油が一部のマーケットで入手可能であるが、味噌の入手は困難である。

#### <酒類>

インド国産のビール、ウイスキー、ワイン、ラムがある。舶来の酒類は一般の酒屋では入手できない。

#### <食用油>

サンフラワー油、落花生油などがあり使用には何ら問題ない。

#### <飲料水>

水道水を直接飲用することはできない。水道水は一旦濾過し、煮沸することが必要である。ミネラルウォーターの入手は可能である。

### (3) 食料の入手

日本食品は、一部の物を除き入手は困難である。ただし、醤油や外国製ジャム、外国製マヨネーズ（日本製は入手不可）、缶詰などは一部のマーケットで入手可能。

その他の食料品は、マーケットで購入可能である。主な市場、スーパーマーケットは、以下のとおり。

#### <市場>

##### **I. N. A. Market** (アイ・エヌ・エイ・マーケット)

醤油、外国製ジャム、外国製マヨネーズ、缶詰、パスタ類。その他、野菜、果物、鶏肉、マトン、魚類などが豊富。

##### **Sarajini Nagar Market** (サロジニ・ナガール・マーケット)

野菜、果物など。

##### **Khan Market** (カーン・マーケット)

野菜、果物、鶏肉、マトン、外国製缶詰、ベーコン、ハムなど。

## ディフェンス・コロニー・マーケット

野菜、果物、鶏肉、マトンなど。

### <スーパーマーケット>

#### Modern Basar (モダン・バサール)

Vasant Lok マーケット内に位置し、醤油、缶詰、プータン米が購入可能。

#### Morning Store (モーニングストア)

Greater Kailash Par IM Blockマーケット内に位置し、醤油、外国製食品の入手が可能。

#### Naan's (ナーンズ)

Greater Kailash Part IN Blockに位置し、一般食料品、冷凍食品他入手可能。

#### D'mart (ディーマート)

Green Park Market内に位置し、一般食料品の入手が可能。

インド料理を好まない人は、できるだけ多くの日本食料品を持参するのが望ましい。

## 1-2 食器、調理器具など

### (1) 食器、調理器具などの入手

ほとんどの電気製品(冷蔵庫、トースター、ミキサー、電子レンジなど)は、現地製が入手可能であり、品質も年々向上してきている。故障した場合にも、現地製品のほうが修理が容易である。炊飯器は、日本製に類似した当地製の物も出回っているが、品質は多少劣る。包丁、まな板、鍋、フライパン(テフロン加工もあり)は現地製で十分間に合う。圧力釜も普及しており、安価で便利である。皿、コップ、フォーク、スプーンなどは当地製が豊富に出回っている。和食器は入手できないが、類似の陶器製品で間に合わせることは可能である。アルミホイルは当地製でよい物が出回っている。食品用ラップも当地製があるが、厚手でやや使い勝手が悪い。

### (2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具など

上述の電気炊飯器の他、電気湯沸かしポット、箸、すり鉢、すりこぎなどは入手できないので持参したほうがよい。キッチンタイマーも入手が難しい。なお、当地の電圧は220vであるが電圧変動が大きいいため、冷蔵庫などの電気製品には「電圧安定器(スタビライザー)」を接続して利用すること。電圧安定器は現地で入手可能。

### <デパート>

Ebony (エボニー) …… South Extension Part II

Big Joe (ビッグ・ジョー) …… South Extension Part II



## 1-3 外食

### (1) 飲食店

邦人の間でよく利用されている飲食店は次のとおり。

#### <日本料理>

##### タムラ

所在地：Vinay Marg, Chanakyapuri (Nehru Park内)

電 話：6110552、4672482～3

##### 都

所在地：11, N Block Market, Greater Kailash Part I

電 話：6476987

##### 東京レストラン

所在地：Ashoka (アショカ)・ホテル内。Chanakyapuri

電 話：6110101

#### <鉄板焼>

##### TK' S (ティーケース)

所在地：Hyatt Regency (ハイアット・リージェンシー)・ホテル内。Bhikaji

Cama Place, Ring Rd.

電 話：6181234

#### <インド料理>

##### Bukhara (ブカラ)

所在地：Maurya Sheraton (モーリア・シェラトン)・ホテル内。Sadar Patel Marg

電 話：6112233

備 考：タンドール料理

##### Dum Phket (ダム・プクット)

所在地：Maurya Sheraton内。Sadar Patel Marg

電 話：6112233

備 考：宮廷料理

##### Khandahar (カンダハール)

所在地：Oberoi (オベロイ)・ホテル内。Dr. Zakir Hussain Marg

電 話：4363030

備 考：タンドール料理

### **Haveli (ハベリ)**

所在地：Taj Mahar (タージ・マハール) ・ホテル内。Mansingh Road

電 話：3016162

備 考：ムガール料理。インドダンスあり

### **Sagar Ratna (サガール・ラトナ)**

所在地：Lodi (ロディ) ・ホテル内。Lala Lajpat Rai Marg

電 話：3329465

備 考：南インドベジタリアン料理

### **Kwality (クオリティー)**

所在地：Regal Building, Connaught Place

電 話：3732352

備 考：インド料理、西洋料理

### <中国料理>

#### **Taipan (タイパン)**

所在地：Oberoiホテル内。Dr. Zakir Hussain Marg

電 話：4363030

#### **Golden Phoenix (ゴールデン・フェニックス)**

所在地：Le Meridien (メリディアン) ・ホテル内。Windsor Place, Jan Path

電 話：3710101

#### **House of Ming (ハウス・オブ・ミン)**

所在地：Taj Mahalホテル内。No.1, Man Singh Road

電 話：3016162

#### **Tea House of the August Moon (ティ・ハウス・オブ・オーガスト・ムーン)**

所在地：Taj Palace (タージ・パレス) ・ホテル内。2 Sardar Patel Marg

電 話：6110202

#### **Empress of China (エンプレス・オブ・チャイナ)**

所在地：Park Royal (パーク・ロイヤル) ・ホテル内。Nehru Place

電 話：6223344

#### **Zen (ゼン)**

所在地：B Block, Connaught Place

電 話：3724455

## **Fujiya (ふじや)**

所在地：12/48 Malcha Marg

電話：6876059

### <イタリア料理>

## **La Piazza (ラ・ピアザ)**

所在地：Hyatt Regencyホテル内。Bhikaji Cama Place, Ring Road

電話：6181234

## **Ego (エゴ)**

所在地：4 Community Centre, New Friends Colony

電話：6318185

### <フランス料理>

## **Longchamp (ロンシャン)**

所在地：Taj Mahalホテル内。No.1, Man Singh Road

電話：3016162

## **Orient Express (オリエント・エクスプレス)**

所在地：Taj Palaceホテル内。2, Sardar Patel Marg

電話：6110202

## **La Rochelle (ラ・ルシェール)**

所在地：Oberoiホテル内。Dr. Zakir Hussain Marg

電話：4363030

### <その他の西洋料理>

## **West View (ウェスト・ビュー)**

所在地：Maurya Sheratonホテル内。Sadar Patel Marg

電話：6112233

## **TGI's Friday**

所在地：62, Basant Lok

電話：6140761

### <タイ料理>

## **Baan Thai (バーン・タイ)**

所在地：Oberoiホテル内。Dr. Zakir Hussain Marg

電話：4363030

## Blue Elephant

所在地：Intercontinental (インターコンチネンタル) ・ホテル内。Barakhamba Avenue

電話：3320101

## <ファーストフード>

### Domino's (ドミノス)

所在地：Greater Kailash M Block Market, Connaught Place 他

備考：デリバリーサービス有

### Pizza Hut

所在地：Greater kailash M Block Market, Connaught Place

### Winpy's (ウィンピース)

所在地：Greater kailash M Block Market, Connaught Place 他

### Kentucky Fried Chiken

所在地：Community Center New Friends Colony, Defence Colony Market 他

### McDonalld's

所在地：Vasant Lok Vasant Vihar, Green Park Market, Connaught Place

### Nirula's (ニルラス)

所在地：Vasant Lok Vasant Vihar, Defence Colony Fry Over Market 他

## (2) その他の飲食店

デリーでは気楽なバーやスナックは少なく、ほとんどがホテル内、会員制クラブ内にある。代表的なバーは以下のとおり。

### Captain's Cabin (キャプテンズ・ケビン)

所在地：Taj Mahalホテル内。No. 1, Man Singh Rord

電話：3016162

### The Jazz Bar (ジャズバー)

所在地：Maurya Sheratonホテル内。Sadar Patel Marg

電話：6112233

### Someplace Else (サムプレイス・エルス)

所在地：The Park (パーク) ・ホテル内。Sansad Marg

電話：3733737

### Polo Lounge (ポロラウンジ)

所在地：Hyatt Regencyホテル内。Bhikaji Cama Place, Ring Road

電話：6181234

## 2. 衣料

### 2-1 衣料

#### (1) 一般事情

当地の夏は期間が長く（4～10月）、酷暑期（5～6月）には気温が45℃を上回ることもある。夏服は長期間着用することになる。ただし、ホテルなどの室内では冷房がかなりきいていることがあるので、上着が必要となることもある。また、冬（12～2月）には、最低気温が2～3℃まで気温が下がるため、冬服も必要となる。

衣料品は廉価であり、子供用または大人の普段着として使用する分には問題はない。また、注文服も手軽につくることができる。

#### (2) 日本から持参したほうがよい衣料

背広をはじめ、日本で使用していた衣料は一揃い持参するとよい。また、婦人のストッキングは、入手可能であるが、品質が劣るので多めに持参したほうがよい。履き物は普段履きであれば、入手可能である。しかし、スリッパはあまり使用されていないので、必要であれば持参したほうがよい。

#### (3) 任国で調達したほうがよい衣料

子供のTシャツやポロシャツ、大人の普段着程度の物については、種類も豊富に出回っており、当地での入手は可能である。

#### (4) その他の留意点

子供は、日本人学校で盆踊り大会などの行事があるので、浴衣一式を持参したほうがよい。

### 2-2 礼装

#### (1) パーティー

男性は背広があればよい。女性の場合は、ワンピースやツーピースでよい。フォーマルドレスは持参すると便利であるが、着る機会はあまりない。

#### (2) 式典

男性、女性ともパーティーの場合と同様である。

#### (3) 冠婚葬祭

男性、女性ともパーティーの場合と同様である。

#### (4) その他の留意点

女性の和服は特別な場合を除き、一般にはそれほど必要ではないので必ずしも持参しなくてもよい。

## 2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

### (1) 洗濯

クリーニング屋は街中にある。高級ホテルでも引き受けてくれる。しかし、技術的な面を考慮すると、高価な服や着物のクリーニングは避けたほうが無難である。

洗濯機、アイロンは入手可能である。

### (2) 仕立て、修繕

洋服の仕立てはきわめて廉価であり、日常衣類に関しては問題はない。商店街の洋服屋、あるいは自宅に仕立屋を呼んで注文することも可能である。修繕は、クリーニング屋で引き受けてくれる。

### (3) 保管

雨期（7～9月）は湿気に注意する必要がある。ナフタリンは当地でも入手可能である。また、1年中ほこりが多いため、白などのほこりが目立ちやすい服の保存には、衣類カバーをかけて保存するなどしたほうがよい。

## 3. 住宅

### 3-1 住宅事情

#### (1) 一般事情

長期間滞在と短期間滞在では、住宅事情はまったく異なる。

短期間滞在の場合は、ホテルを利用することになる。5つ星クラスのホテルでは、欧米並みのホテルライフを満喫することができる。各ホテルには、プール、テニスコート、アスレチッククラブなどがあり、停電に備えての自家発電装置もあるため、快適な時間を過ごすことができる。ただし、滞在費用はかなり高額である。

一方、長期滞在者にとって、快適に生活できる住宅の確保はなかなか難しい。一般に、当地の住宅には家具は付いておらず、日常生活に必要な水、電気、ガスなどのインフラ整備も概して不十分である。家主と賃貸契約を締結した後に、水道の水量が充分でないことが判明したり、電気系統の問題が発生したりすることも多々ある。

治安面はそれほど問題はないが、住宅を探す際には、隣や裏が空き地や公園でないこと、またグリル（鉄格子）が付いている家屋を見つけることも、安全のために必要なことである。

住宅の契約は1～3年程度の前払いが通常である。家賃の支払い方式は家主によって千差万別である。契約金額の半分を現金（振込）で要求されることが多い。ただ

し、この場合当然のことであるが、契約書上には半額でしか表示されない。

家具をはじめ冷蔵庫、冷凍庫、クーラーなどの生活上最も必要な電気製品は設置されていないので、借り手がすべて調達しなければならない。ガスはプロパンガスであるが、その容器（シリンダー）の権利の取得は、前任者からの引き継ぎがある場合を除いて容易ではない。電話の権利も、前任者からの引き継ぎがある場合のほかは、取得は早くても2～3カ月程度はかかる。新規に権利を獲得する場合は、1年近く待たされることもある。

中期間滞在（1年以内）用のアパートや下宿の類はなく、ホテルに滞在せざるを得ない。

### 3-2 ホテル事情

邦人がよく利用するホテルは以下のとおりである。通常、宿泊料金にはExpenditure Tax（デリーでは20%）が加算される。さらに、食事には7%のSales Taxが加算される（料金は、1999年8月現在のレートである）。

#### THE OBEROI

所在地：Dr. Zakir Hussain Marg

電話：4363030

料金：シングル325USドル、JICA割引120USドル

#### LE MERIDIEN

所在地：Windsor Place, Jan Path

電話：3710101

料金：シングル275USドル、JICA割引120USドル

#### THE PARK

所在地：Parliament Street（JICA事務所の向かい）

電話：3732477

料金：シングル7500ルピー

#### MAURYA SHERATON（モーリア・シェラトン）

所在地：Sadar Patel Marg

電話：6112233

料金：シングル200USドル

#### TAJ PALACE

所在地：2 Sardar Patel Marg

電話：3010404

料 金：シングル200USドル、JICA割引150USドル

### TAJ MAHAR

所在地：Mansingh Road

電 話：3016162

料 金：シングル275USドル、JICA割引165USドル

### HYATT REGENCY

所在地：Bhikaji Cama Place, Ring Rd.

電 話：6181234

料 金：シングル225USドル

### PARK ROYAL

所在地：Nehru Place

電 話：6223344

料 金：シングル9000ルピー、JICA割引100USドル

### VASANT CONTINENTAL (バサント・コンチネンタル)

所在地：Vasant Vihar

電 話：6148800

料 金：シングル200USドル、JICA割引190USドル

### DIPLOMAT (ディプロマット)

所在地：9 Sadar Patel Marg

電 話：3010204

料 金：シングル4500ルピー、JICA割引3800ルピー

## 3-3 住宅の探し方

まずJICA事務所に問い合わせることをすすめる。または、邦人の知人の紹介に基づいて不動産屋に照会してもらうとよい。当地にも不動産屋はたくさんある。

## 3-4 住宅の選定上の留意点

### <居住地区の選定>

- ・安全：家屋に鉄格子の装備などが設置してあるか、また、空き地や公園に隣接していないかなどの確認。
- ・衛生：シロアリ、ゴキブリ、ネズミなどに注意。
- ・環境：騒音などについて家主や地域の住民の評判の確認。
- ・通勤、通学上の利便性：職場、学校までの距離、時間の確認。
- ・インフラ：停電、断水の状況の確認（地区により状況が大きく違う）。



#### <不動産屋への照会>

- ・複数の不動産業者と接触する。
- ・一戸建かフラットか：最上階は避ける（夏の暑さ対策）。
- ・部屋数、大きさ、バス・トイレの数：1部屋は物置用として確保。
- ・予算、支払い条件：余裕をもった額を提示するとあとが楽である。
- ・前の居住者の確認：転居した理由を確かめる。
- ・電気容量などの確認：最低20KVA必要。エアコン用などの大容量コンセント数の確認。
- ・地下、屋上タンク：貯水量、ポンプアップシステムの確認。タンク消毒。
- ・温水器（Geysler）の容量：50ℓ以上が望ましい。
- ・使用人用居室の有無：よい人材を確保するために、あったほうがよい。
- ・車庫の有無、ドライブウェイ（家へ通じる私設車道）：ドライブウェイは家主と別が望ましい。
- ・雨漏り：修理不能の場合もある。

#### <物件の選定>

一度は同居者（家族）全員で物件を下見したほうがよい。当地の住宅は、2階建が多く、その1階部分か2階部分に家主が住んでいることが多い。この場合には、電気や水道のメーターやタンクが別になっていることを確認する必要がある。

### 3-5 住宅の契約

#### <家主との交渉>

- ・家賃、賃借期間：契約更新時は家賃が大幅に上がる。
- ・支払い条件、前払いの期間：家主はダメモトで家主側に有利な条件を要求してくるのでおおいに交渉するとよい。
- ・賃借更新時の家賃。
- ・キャンセル条項：最低何カ月前の通告が必要か。次の入居前準備の各項を参考にして、文書に残す。
- ・家主の責任範囲の確認。
- ・弁護士への相談：JICA事務所に相談する。

#### <賃借契約>

契約期間は任期に合わせる事が可能である。支払い方法は「前払い」が常識になっている。契約に際し、立ち会い人の要否を確認する必要がある。

### <入居前準備>

- ・床磨き、屋内外の塗装：入居時の状態を写真で残すとトラブルが少ない。
- ・雨漏り部分の補修：要交渉のこと。
- ・地下、屋上タンクの清掃：要交渉のこと。
- ・鉄格子の設置：要交渉のこと。
- ・入り口扉の鍵の更新
- ・漏電チェック：家主と同居の場合、メーターは区別されているか確認する。
- ・塀、目隠し、外灯の整備：ガードマンの要否。
- ・備え付け機器、備品の作動確認：天井ファン、電灯、水洗トイレ、蛇口など。
- ・害虫駆除：蚊、シロアリ、ゴキブリ、ネズミなど。
- ・電話設置：手続きに長期間必要。電話の権利は必ず前任者から後任者へ引き継ぐ。
- ・エアコンの設置：レンタル会社あり（暖房機能あればなおよい）。
- ・家主と電気メーターの数値確認：必ず立ち会う。

#### 3-6 電気、ガス、水道などの手続きと管理

電気、水道、電話などの請求は、毎月定期的にあるわけではない。また、その請求額が不当に高い場合もあるので、メーターの数値は注意しておく必要がある。不当な請求が来たときは、関係機関に出向いて交渉することになる。その際、自分で行くよりも事務所のインド人に行ってもらほうがスムーズである。また、二重請求かどうかを必ず確認し、支払った際には領収証を必ず保管しておくことが肝要である。

#### 3-7 その他

該当情報なし。

## 4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

### 4-1 赴任前の準備

#### (1) 予防接種

日本からの入国に際し義務づけられている予防接種はない。ただし、自己防衛のために、成人については破傷風、A型肝炎、B型肝炎、腸チフス、日本脳炎、狂犬病ワク

チンの接種をすすめる。小児の一般定期予防接種は、母子手帳のスケジュールにしたがって進めればよい。当地で接種を受けることも可能であるが、できるだけ赴任前に日本で済ませるべきである。

## (2) その他の準備

眼鏡やコンタクトレンズなどは日本で調整し、あわせて予備も持参することをすすめる。常備薬なども日本から持参したほうがよい。

## 4-2 医療事情

### (1) 医療機関

当地には、国立病院、私立病院、医院など各種の医療機関がある。しかし、国立病院は診療費が無料あるいは安価なため、経済的に貧しい患者で混雑している。また、院内が不衛生なこともあり、邦人の利用には適さない。一方、私立の病院には清潔で設備の調ったものが多いので、これらの中から病状に応じて選ぶとよい。

受診の際の注意事項としては、開業医などはしばしば不在のこともあるので、電話で受診の予約をしたほうがよい。

当地で邦人が利用する医療機関の医師のレベルは、そのほとんどが欧米における留学や研修の経験をもち、先進国の医師と比較して劣ることはない。ただし、看護婦を含めたパラメディカルについては、プロ意識に欠ける面があり、サービス精神に乏しく、日本と比較すると水準が低い傾向にある。使用されている医療機器は、施設にもよるがだいたい整備されている。

邦人が利用する主な医療機関は以下のとおり。

#### **INDRAPRASTHA APOLLO HOSPITAL (アポロ病院)**

所在地：Sarita Vihar, Delhi-Mathura Road

電話：6925801

備考：総合病院、救急外来

#### **ASHLOK HOSPITAL (アシュロック病院)**

所在地：25-A, Block AB, Community Centre, Safdarjung Enclave

電話：6165901~07

備考：総合病院、救急外来

### (2) 緊急時の対応と措置

当国の救急医療体制は、未だ十分に整備されておらず、公的機関から救急車の派遣を依頼することはできない。緊急の場合は、救急医療を行っている医療機関に直接電話し、病院から救急車を派遣してもらうか、もしくは自ら病院へ行かなければならぬ

い。夜中など、自家用運転手がないときには「タクシー」を利用したほうが早いことも多い。また、夜中や休日の緊急事態に備えて、どこの医療機関にどのようにアクセスするかをあらかじめ決めておくことが重要である。

#### 4-3 医薬品など

##### (1) 携行することが望ましい医薬品

本邦で常備、または服用している物はすべて持参したほうがよい。また「家庭の医学」などの応急看護辞典があると便利である。

##### (2) 任国で調達できる医薬品

当国は医薬分業システムになっており、医師の処方せんにより市中の薬局で購入する。通常は問題なく調達できる。

##### (3) 任国で調達できる衛生用品

入手可能であるが品質は劣る。気になるようであれば、日本からの持参をすすめる。

##### (4) 医薬品を使用する場合の留意点

医師の指示に従えば問題はない。

#### 4-4 妊娠、出産、育児

##### (1) 妊娠した場合の対応

当地の医療機関における妊娠管理は、本邦と比較すると劣るといわざるを得ない。

妊婦への生活指導や、分娩に対する具体的アドバイス（母親教室など）といったものは、当地ではほとんど期待できないため、初産の場合は、かなり不安をとまなうと思われる。また、経産婦でも妊娠経過が思わしくない場合は、本邦での分娩が無難である。

##### (2) 出産後の対応

日本のように母子手帳に基づく検診はない。予防接種も個人ベースで受けることになる。

##### (3) 育児

「パンパース」などの外国製紙オムツは、入手可能であるが高額である。インド製は品質が劣るので、日本から持参したほうがよい。オムツカバー類も日本製を持参することをすすめる。しかし、粉ミルクは外国製の入手が可能である。哺乳瓶、ベビーパウダー、ベビー石鹸、乳児用衣類、ベビーバスなどはインド製で充分と思われる。

#### 4-5 手術

##### (1) 任国で可能な手術

簡単な手術ならば問題ない。しかし、手術を受けるまでに時間的余裕がある場合や、複雑な手術の場合は、本邦で受けたほうがよい。

## (2) 手術設備の状況

JICA関係者が利用する私立の病院、個人クリニックは清潔で設備も調っている。

## (3) その他の留意点

交通外傷などで緊急に輸血が必要になった場合、当地における輸血用血液の調達方法は次の3通りである。

①赤十字血液銀行にて、必要とする輸血量と同量の献血を行うことにより、引き替えに患者の血液型にマッチした第三者の血液の供給を受ける。輸血の適性検査としては、日本と同様、HIV抗体（エイズ）、HBs抗原（B型肝炎）、HC抗体（C型肝炎）、VDRL（梅毒）の各検査が行われている。

②大病院では、患者またはその家族が選択した献血者から、患者の血液型に合った血液をその場で直接採取し輸血する。

③民間の血液銀行から購入する。

この内、③の方法による血液は売血が主として供給源になっていることと、輸血用としての適性検査の信頼性にも問題があるため、使用は避けるべきと思われる。可能であれば②の方法をとるのが最良である。

## 4-6 任国でよくかかる傷病

### (1) 一般の疾病

当地には多くの伝染病が存在する。しかし、衛生状況を正しく認識し、適切な対策を講じていれば、健康な生活を送ることが可能である。当国の感染症統計によると、胃腸炎、コレラ、腸チフス、A型肝炎などの経口感染症、およびデング熱、マラリア、日本脳炎、カラアザールなどの昆虫媒介伝染病などである。

### (2) 風土病、伝染病

さまざまな病気があるが、外国人が罹病するケースでは「デング熱」が多い。

### (3) 有害動物、病害虫

特に「蚊」に注意を払う必要がある。

## 4-7 保健衛生

### (1) 飲料水

在留邦人は飲用水としてミネラルウォーターを使用するほか、水道水を濾過した後、さらに煮沸してから飲用している。

### (2) 濾過器の入手

当地でも購入可能であるが、日本製の濾過器に信頼性を求める場合は、持参したほうがよい。

(3) 蚊帳・防虫ネットの入手

蚊帳、防虫ネットの入手は難しい。ただし、蚊取マットなどがあるので、蚊帳などはあまり使用しない。

(4) その他の留意点

当地では、供給された水を一旦地下タンクに溜めてから屋上タンクにポンプアップする方式のため、貯水タンクの内部を清掃することが大切である。

## 5. 教育

### 5-1 教育事情

#### (1) 一般事情

インドの教育制度は複雑である。基本的な構造は次のとおりである。

初等教育（8年：5～13歳）

小学校（クラスI～V：5～10歳）

中学校（クラスVI～VIII：11～13歳）

中等教育（クラスIX～X：14～15歳）

高等中等教育（クラスXI～XII：16～17歳）

※ここで、高等教育へ進むための普通教育、もしくは職業教育のいずれかを行う。

大学学部（3年間）

インドは、膨大な数の非識字者人口を抱える一方、数多くの優秀な人材を世界に輩出しており、高度な水準の教育機関も存在する。

#### (2) 日本人学校

1964年9月1日に、ニュー・デリー日本人小学校 (Japanese School, New Delhi) として開校された。1989年に、ニュー・デリー日本人学校と改名され、1991年8月5日に現校舎に移転した。同校の運営は、ニュー・デリー日本人学校理事会によって行われている。なお、日本人学校には小学校および中学校がある。

所在地：Pocket B&C, Sector-A, Vasant Kunj New Delhi

電話：6891230、6896816

#### (3) 現地校、外国人学校

主な外国人学校は以下のとおり。

#### **The American Embassy School**

所在地：Chandragupta Marg, Chanakyapuri

電話：611740～6

日本人学校に通学しない邦人子弟のほとんどは、American Embassy Schoolに通っている。同校は、幼稚園から高校3年生（Grade：12）まであり、生徒数は約700人で、そのうちの約25%が米国人である。残りの75%は、日本をはじめ50以上の国の子弟である。同校は、米国大使館の隣にあり、デリーのDiplomatic Communityの中心街にある。8月中旬から12月下旬までが第1学期、1月上旬～5月下旬までが第3学期となっている。夏休みは6月上旬～8月中旬までである。

#### **The British School**

所在地：San Martin Marg, Chanakyapuri

電話：602183、4678524

#### **The German School in New Delhi**

所在地：2, Nyaya Marg

電話：3017420～5

#### **Ecole Francaise de Delhi**

所在地：2, Aurangzeb Road

電話：3017138

#### (4) 幼稚園

1995年度から日本人学校に幼稚園部が開設された。所在地および電話番号は、日本人学校と同様である。その他に「The American Embassy School」のECEC（Early Childhood Education Centre：その年の9月1日までに3歳になる子供）、Kindergatrtten（その年の9月1日までに5歳になる子供）、The British School、German Schoolの幼稚園などもある。また、現地の幼稚園は以下のとおり。

#### **Magic Year**

所在地：E-3, Vasant Vihar

電話：6140317

#### **Step by Step**

所在地：Plot No.1, Panchsheel Cooperative Building Society N Block,

Panchsheel Park

電話：6463130、6213957

#### 5-2 入学手続きおよび授業料（1999年8月現在）

##### (1) 日本人学校

ニュー・デリー日本人学校への転入学の手続きは、在籍していた学校へ「ニュー・

デリー日本人学校へ転出」と申し出て、必要な書類（在学証明書、指導要録写し、健康診断票、歯の検査票）を保護者が直接持参して行く。また、教科書は下記に出向き「教科書給与証明書」を提示して受け取る。

海外子女教育振興財団（ホームページ：<http://www.joes.or.jp>）

#### 東京本部

所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル6階

電話：03-3580-2521（代表）、03-3580-2827（通信教育課）

FAX：03-3503-7238

E-mail：joes1@netforward.or.jp

#### 関西分室

所在地：〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-200 大阪駅前第一ビル2階

電話：06-6344-4318

FAX：06-6344-4328

ニュー・デリー日本人学校の入学金は1万ルピー、授業料は月額3500ルピー（日本円で月額約7000円）となっている。授業料の日本円支払い分は「東京三菱銀行丸の内支店、非居住者円普通口座 0809705（ニューデリー日本人学校円授業料口座、代表：金澤潔）」に「転入学の月から3月までの月数×7000円」を納入する。

ニュー・デリー日本人学校では、前記の必要書類を提出すると即日入学できる。また、通学用スクールバス（利用料金：月額1500ルピー）の乗降場所、時間および時間割を確認すること。また、授業料（ルピー分）および入学金は、東京三菱銀行ニュー・デリー支店に払い込む必要がある。

日本で用意すべき学用品は、次のとおりである。

筆箱、鉛筆（HBかB）、消しゴム、はさみ、下敷き、クレパス、絵の具セット、色鉛筆（12～16色）、のり、けん盤ハーモニカ、色紙、三角定規1組、なわとび用のなわ、たて笛（ソプラノ・リコーダー、アルト・リコーダー）、コンパス、カッターナイフ、切り出しナイフ、習字セット、そろばん（3～4年の3学期に使用）、分度器、彫刻刀（4本セット）、国語辞典、英和・和英辞典、裁縫道具（針、はさみ、白・黒糸、チャコ程度）など。

学用品以外に必要な物は次のとおり。

通学用の服装は自由である。靴は上履き外履き兼用（運動靴）、通学カバンは自由（ランドセルは不要）、ステンレス水筒（毎日持参する。大きめの物がよい）、弁当箱（給食なし）、体操着と体操帽および紅白のはちまき、水泳着と水泳帽およびゴー



グル（水泳シーズンは4～9月）、絵の具、習字用筆・半紙、各学年に応じた参考書、ノート類（購買部にもあるが、できるだけ余分に持参したほうがよい）、折り紙用の色紙など。

なお、新学期は日本と同様4月で、1学期が4～8月、2学期が9～12月、3学期が1～3月である。1999年度は、夏期休暇が5月21日～6月30日、秋期休暇が8月30日～9月4日、冬期休暇が12月27日～1月7日となっている。また、主な年間行事は、8月の七夕祭り、9月の水泳大会、10月の盆踊り大会、11月の運動会、1月のもちつき大会などである。

## (2) 現地校、外国人学校

American Embassy Schoolの入学金は、小学校で100ドル、登録料は4500ドル、年間授業料は約9650ドルである。

入学試験は英語で行われるため、多少の英語力が必要となる。また、授業は英語で行われるので、英語圏以外の生徒には English as a Second Language (ESL) プログラムが用意されている。

## (3) 幼稚園

ニュー・デリー日本人学校附属幼稚園部の入園に関しては、定員（30名）に余裕があれば、随時入園できる。しかし、定員を超えた場合、その後の入園希望者はウェイティングとなる。保護者とともに来園し、幼稚園にて手続きをした段階で初めて正式な入園またはウェイティングと認められる。予約によるウェイティングはできない。入園料・保育料（1997年度）は、入園料が2万円、月額保育料は円とルピーの二本立てで、1万3000円および1500ルピーである。

## 5-3 教育関係施設

### (1) 図書館

児童向図書館としては以下のものがある。

#### **Children's Book Trust**

所在地：B.C. Roy Memorial Library, Nehru House, Bahadur Shah Zafar Marg

#### **National Book Trust**

所在地：A5, Green Park, Aurobindo Marg

その他移動図書館もあるが、英語またはヒンディーをはじめとする各種インド語であり、邦人の子弟には向かない。デリー日本人会室（所在地：B7/2 Safdarjung Enclave）の図書室には、児童向けの図書が若干ある。

## (2) スポーツ施設

日本人学校にはプールがある。ホテルや会員制クラブなどにもテニスやプール、その他のスポーツ施設がある。また「DDA Sports Complex (所在地：Siri Fort およびSaket)」などのSports Complexでも、水泳、バドミントン、テニス、ローラースケートなどができる。

## 5-4 家庭学習

### (1) 家庭教師

英語の家庭教師はたくさんいる。在住の邦人に相談し、指導方針などを確認してから先生を決めるとよい。ピアノ、バイオリンなどについては次のとおり。

#### Delhi School of Music

所在地：Nyaya Marg, Chanakyapuri

備考：個人教授可能

### (2) 通信教育

赴任前に海外子女教育振興財団に問い合わせること。また、子弟が日本で通っていた塾からも問い合わせは可能である。

### (3) 携行したほうがよい家庭用学習教材

保護者が必要と判断するならば、いくつか携行したほうがよい。

## 6. 家庭の使用人

### 6-1 一般事情

外国人の一般家庭で雇う使用人は、コック、運転手、ベアラー（家の中の管理、雑務）、スイーパー（掃除人）、アヤ（子守）、ドビー（洗濯人）、マリー（庭師）、ハウスキーパー（家事一般）、チョッキダール（門番・警備員）などである。各家庭において、必要に応じて雇用している。最近では、雇用関係のわずらわしさを避けるために、コック兼ベアラー、スイーパー兼ベアラー、アヤ兼ドビーと兼務で雇う家庭が増えている。ドビー、マリーのほとんどは、数軒をかけもちするパートである場合が多い。チョッキダールは、個人契約よりも会社契約による派遣が主である。また、自治会で巡回チョッキダールを雇っている地区では、1戸あたり50ルピー程度の負担となる。

使用人を新規で雇用する場合には、試用期間として最低でも3カ月間設けているのが普通である。その間に、使用人の能力と人柄を確かめ、最終的な決定は当地に滞在

する邦人に相談して決めるのが望ましい。また、使用人を雇う場合には、使用人の顔写真、住所、本籍などを最寄りの警察署に届け、身元調査することをデリー警察はすすめている。また、トラブルを避けるためにも契約書を取り交わし、健康診断を受けさせるとよい。

## 6-2 運転手

### (1) 雇用

運転手の雇用は、帰国する邦人からの紹介が最も望ましい。それが不可能な場合は、信頼できるインド人の紹介により雇用するとよい。一般家庭では、新聞広告などにより運転手を募集することはまずない。選考方法としては、人からの紹介ではない運転手は採用しないこと。また、若い人は運転が荒いこともあるため、選考の対象から外すほうがよい。

賃金は、1996年8月現在で、1カ月2500～4000ルピーぐらいである。

勤務時間は7:00～18:00(19:00)頃までが通常であるが、各家族の構成状況によって異なる。残業は1時間あたり10～20ルピーぐらいが目安となっている。

### (2) 日常管理

毎日の走行距離を記録させ、雇用者がチェックすることが望ましい。また、その車の燃費をきちんとチェックし、燃料を管理する必要がある。また、スピードの出し過ぎや割り込みなどを頻繁に行うようであれば、その都度注意し、安全運転を徹底させることが必要である。運転手は車中で待機することも仕事なので、待機中に勝手な行動をしないよう習慣付けることも必要である。また、サンダルでの運転は認めないほうが安全である。

### (3) 教育指導

注意すべき事柄があれば、相手に遠慮せずに、気が付いた時点での的確に伝えることが肝要である。

### (4) その他の留意点

ガソリンを転売するケースが多々あることから、使用量に注意し、ガソリンステーションには、できる限り同行して給油量を確認することが望ましい。

## 6-3 家政婦／夫

### (1) 仕事の種類と人数

一般事情の項を参照のこと。

### (2) 雇用

雇用方法は運転手と同じく、邦人からの紹介、あるいは信用できるインド人から紹介

してもらうのがよい。新しく住居を決めると自薦、他薦のハウスキーパー、スイーパーが訪問してくるが、雇用しないほうがよい。これらの人々は、外国人の推薦状を持参してきたりするが、自作の可能性もあり信用できない。特に、家の中で従事する使用人の採用には十分に気を付け、滞在の長い邦人の意見を求めてから決定するのがよい。

#### <1カ月の賃金の目安> (1996年8月現在)

コック：約1800～4000ルピー

ベアラー：約1000～2000ルピー

アヤ：約1400～2000ルピー

ドビー：約450～1000ルピー

ハウスキーパー：約1200～2700ルピー

マリー：約150～900ルピー

また残業手当は、1時間当たり10～20ルピーが標準である。使用人を休日に出勤させる場合は、休日出勤手当として100ルピー前後支給している。ボーナスは、1年分の就労に対し「1カ月分」の賃金を支給するのが基準となっている。本採用後1年を経過していない場合には、働いた月数に応じて支給する家庭が多い。ボーナスは、Diwali (富と幸運の女神ラクシュミーの祭り。また、10月下旬の伝説のラマ王子の帰還を祝う光の祭り)、Holi (3月の春の到来を祝う祭り)、クリスマスなどの特定の祭日に、まとめて1カ月分を支給、あるいは二度に分けて支給するのが一般である。昇給については、1年ごとに5～10%アップという方法が一般である。また、使用人を後任者に引き継ぐ場合、帰国時にその月の給与と月給1カ月分の退職金を支払う。

使用人を採用する際、特にコック、アヤについては健康診断を受けさせたほうがよい(費用は雇用者の負担)。休日は週1回、昼休みは2時間程度が一般である。

#### (3) 日常管理

給与の前貸しは、原則的には認めないほうがよい。万が一、前貸しする場合は、最高でも1カ月分とするのが無難である。使用人の服装については、常に清潔に保たせるようにすること。また、使用人に対してユニフォームを年に1～2回支給する場合もあるが、ユニフォームの支給に要する金額は枚数に関係なく、最高でも1カ月分の給与以下となっている。

#### 6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

マリーについては、数軒共同で雇用しているケースが多い。「種を買ってくる」など理由をつけては代金を持ち逃げするケースがあるため、多額の金は渡さないよう十分注意を払うこと。チョッキダールについては、個人を雇用するのではなく会社と契

約するほうが望ましい。

## 7. 交通事情

### 7-1 交通手段

#### (1) 一般事情

インドにおける大衆的な乗り物は、オートリキシャ、バス、列車、タクシーなどである。タクシーにはメーターが据え付けられているが、料金の変更にしたがってメーターの調整が行われるとは限らないため、支払いは調整表に基づいて請求される。また、オートリキシャは三輪車であり、たいへん安定が悪い。ほかに交通手段がない場合を除いて利用はすすめられない。列車は営業距離では世界第4位の規模を誇り、旅行に便利である。列車の予約は個人でもできるが、公務出張などの場合にはJICA事務所を通じて切符の手配をするほうがよい。

#### (2) 自家用車を利用する場合

自動車の通行は、日本と同じ左側通行であるため違和感はない。また、ニュー・デリーは道路幅も広く、よく整備されている。しかし、当国では概して交通マナーが悪い（特に信号無視が多い）、自ら運転するのは必要最小限とし、運転は運転手に任せたいほうがよい。ニュー・デリー、オールド・デリーともに道路はバス、トラック、タクシー、オートリキシャ、オートバイ、自転車など、速度の違う交通手段が、あたかも競争しているかのように雑然と走行している。また、家畜や歩行者の突然の飛び出しもあるので、運転には細心の注意が必要である。バス、トラックは交通ルールを無視して走行するケースが多いので、特に注意が必要である。

#### (3) レンタカーなどを利用する場合

レンタカーは、日本のように車だけを貸し出すケースは少なく、運転手付きで乗用車を利用することが多い。

#### (4) 道路地図

道路地図は、簡単な物（Eicher City Mapなど）であれば、ホテルや町の本屋で入手できる。

### 7-2 交通事故

#### (1) 対処方法

加害者、被害者の別を問わず、負傷者を病院に運ぶこと。次に、現場はできるだけそのままにして（現場で議論などで長居しない）最寄りの警察に事故の報告をするこ

と。さらに、事故の程度により加入保険会社へ届ける必要がある。しかし、通常事故現場にはやじ馬がすぐに集まり、これらの集団は、外国人がインド人や牛などを死傷させその救助措置に手間どっているのを見ると感情的に激昂し、次第に暴徒化する場合がある。したがって負傷者の救助については無理をせず、現場の雰囲気から身の危険を感じたら、いち早くその場を離れ、そのまま最寄りの警察に駆け込み、事故の届けをすることも考えたほうがよい。

事故現場では、相手方の運転手名、会社名、住所、電話番号、車両ナンバーなどをメモし、また、事故を取り扱った警察官の所属、階級、氏名、電話番号などを確認しておくとうい。

## (2) 救急病院

「4-2 (2) 緊急時の対応と措置」を参照。

## (3) 盗難

車両本体の盗難はそれほど多くないが、タイヤ、ホイールキャップなどの部品を盗まれることがある。駐車をする場合は、荷物をトランクに入れて目につかないようにし、また、車を離れる際には必ずドアロックをすること。

## 7-3 交通違反

### (1) 交通法規

基本的には日本の交通法規とほぼ同じであるが、ほとんど守られていないので、当地の交通事情に慣れるまでは自分では運転しないほうが無難である。日本と違う点の具体的な例としては、信号が赤でも車も人も交差点に入ること、道路（中央分離帯が多い）に牛や物乞いがいることなどである。いずれにしろ、交通違反は常に行われていると思って細心の注意を払って運転をする必要がある。

### (2) 対処方法

重要なことは、ルール無視のドライバーが多い中で、慌てず、焦らず、忍耐して安全運転を心がけることである。

## 7-4 車の修理

### (1) 部品

あえて純正部品を求めなければ、ほとんどの部品が入手できる。しかし、輸入車の部品は入手困難であり、輸入に長期間を要する場合が多い。また、タイヤは当地製の物があるので問題はない。

### (2) 修理工場

簡単な修理であれば十分可能である。

## 8. 通信

### 8-1 電話

#### (1) 一般事情

通常の電話設置には最低2～3カ月を要する。しかし、設置後の故障も多いので、近所に邦人が住んでいる場合には、その電話番号を留守宅に連絡しておくといよい。街頭の公衆電話は少ない。公衆電話を利用するには、まずダイヤルを回し、つながってから、1ルピーを機械に入れる。最近、携帯電話も普及し始め、簡単に入手できる。

#### (2) 国内電話

国内主要都市には直接ダイヤルできる。

<主な都市の市外局番>

デリー：011、ムンバイ：022、カルカッタ：033、チェンナイ：044

#### (3) 国際電話

国際電話は、ISD (International Subscriber Dialling) が自宅の電話に設置されていれば、直接ダイヤルできる。コレクトコールも可能である。海外からかける場合のインドの国番号は「0091」である。

#### (4) 携帯電話

日本からの持ち込みは不可である。

### 8-2 電信

#### (1) ファクシミリ

ホテル、または町のファクシミリ請負店で簡単に発信できる。

#### (2) テレックス

ホテルなどから発信できる。

#### (3) 電報

郵便局から国際電報を打電することができる。料金は「2ルピー／語」である。

#### (4) インターネット

現地のプロバイダは数社あり、主なものは次のとおりである。

**VIDESH SANCHAR NIGAM LIMITED (A Government of India Undertaking)**

備考：国営

**MICROSENSE PRIVATE COMPALY**

備考：「電話：6465855」などのコントラクターを通して契約

**SATYAM ONLINE**

電話：6288520～1

### 8-3 郵便

#### (1) 一般事情

一般の郵便は、日本から当地まで3～4日、逆に当地から日本までは8～10日くらいで到着する。急ぐ場合には「OCS」を利用するとよい。OCSの場合は、3日程で日本に到着する。

#### (2) 課税

日本から当地にビデオテープを送付する場合は、少量ずつ送付したほうがよい。一度に大量のビデオテープを送ると、商業用とみなされ課税される場合がある。

#### (3) 民間サービス業者

DHL、OCSなどのサービスを利用できる。

## 9. マスコミ

### 9-1 新聞

#### (1) 主な日刊紙

インドには多くの英字新聞があるが、代表的な新聞は『Times of India』、『Hindustan Times』などであり、1部1～2.5ルピーである。家庭への宅配については最寄りの新聞配達業者に申し込み、購読料(40～70ルピー)を月ごとに集金人に支払う。

#### (2) 本邦日刊紙

日本の新聞はOCSで送付され、1日遅れで到着する。支払いは、日本の口座から引き落とすほうが確実であり、トラブルもない。

#### (3) 欧米紙

OCSを通じて購読可能。

### 9-2 ラジオ

#### (1) ラジオ放送局

「National Channel : 1566KHz」や「Delhi B English Channel : 666KHz」などがある。音楽主体のFM102.6MHzもある。

#### (2) ラジオジャパン

聴取可能である。

#### (3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

BBCなどがある。



### 9-3 テレビ

#### (1) テレビ放送局

国営放送（ドゥルダッシャナー：Doordaarshan）の他、衛星放送があり、BBC、CNN、映画専用チャンネル、スポーツチャンネルなどが受信できる。国営放送の放送時間は、5：25～0：00である。

#### (2) テレビ受信

衛星放送の受信については、最寄りの衛星放送受信店に申し込み、毎月175ルピー程度を集金人に支払う。

NHKワールドTV（NHKニュース、情報番組、文字によるニュース、世界の天気予報などNHKが行っている国際放送）は、専用の受信アンテナとデジタル衛星チューナーを備えれば、無料で受信できる。アンテナおよびチューナーは当地で入手可能である。

日本からテレビ受像機を持ち込む場合は、マルチシステムの受像機を購入する。日本製のビデオなどを見るには便利である。マルチシステムの受像機の現地購入も可能である。

#### (3) ライセンス料金など

該当情報なし。

## 10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

### 10-1 映画・演劇

#### (1) 映画館

デリーにもたくさんの劇場や文化施設がある。そこでの催し物、美術展、ダンス、映画、演劇、セミナーなどの日時、場所が紹介されているガイドブックは、マーケットの本屋で買える。主なガイドブックは以下のとおりである。また、新聞にも当日の映画、演劇などの情報が載っている。

FIRST CITY……毎月発売15ルピー

THE CITY GUIDE……毎月発売12ルピー

DELHI DIARY……毎週発売5ルピー

デリーには、70以上の映画館があり、ほとんどの映画館がヒンディー語の娯楽映画を上映している。外国（主に英語）映画を上演する映画館も数カ所ある。

主な映画館は以下のとおり。

**REGAL CINEMA (ヒンディー映画)**

所在地：Connaught Place

電話：3362245

**PLAZA CINEMA (ヒンディー映画)**

所在地：Connaught Place

電話：6620753

**PARAS CINEMA (ヒンディー映画)**

所在地：Nehru Place

電話：6432842

**CHANAKYA CINEMA (ヒンディー映画、および外国映画、主に米国、英国映画)**

所在地：Chanakyapuri

電話：4674009

**PRIYA (外国映画、主に米国、英国映画)**

所在地：Vasant Lok Complex, Vasant Vihar

電話：6140048

**ANUPAM PVR (外国映画、主に米国、英国映画)**

所在地：Saket

電話：6865999

また、一部の大使館の公報文化センターなどでも、映画週間が開催されることがある。

(2) 劇場

主な劇場は以下のとおり。

**Tribeni Kala Sangam**

所在地：205, Tansen Marg

電話：3718833

**Kamani Auditorium**

所在地：Copernics Marg

電話：3388084

**Siri Fort Auditorium**

所在地：Asian Village Complex

電話：6493370

## Shri Ram Centre

所在地：Safdar Hashimi Marg

電話：3714307

## Shakuntalam Theatre

所在地：Pragati Maidan

電話：3371849

### 10-2 出版・書籍

#### (1) 一般事情

政府刊行物はコンノートプレイスにある「Jain Book Agency」でほとんど入手できる。外国の書籍は町の本屋やホテル内の本屋にあり容易に入手できるが、日本の書籍は見当たらない。

#### (2) 書店

書店は下記のほか、多数ある。

### JAIN BOOK AGENCY

所在地：C-9, Connaught Place

電話：3320806、3321663

### CROSS WORD

所在地：2F, Ebony, D-4, South Extension Part II

電話：6217645

### The BOOK WORM

所在地：29 B, Connaught Place

電話：3322260

### 10-3 語学学習

#### (1) 語学学習施設

### Bharatiya Vidya Bhavan (仏語、イタリア語、日本語など)

所在地：Kastruba Gandhi Marg

電話：3389943

### Central Instititue of Hindi (ヒンディー語)

所在地：Sri Aurobindo Ashram, Sri Aurobindo Marg 16

電話：6961477、6961323

### Alliance Francaise (仏語)

所在地：D-13, South Extension

電話：6258128

**American Embassy School Adult Education (英語)**

所在地：Chandragupta Marg, Chanakyapuri

電話：6117140～6

(2) 家庭教師

語学(英語)については、欧米人の女性が家庭教師をしているケースが多く、在留邦人(特に女性、子供)が教わっている。授業料は、1時間あたり200～300ルピーぐらいである。ヒンディー語の個人レッスンも可能。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

インドには遺跡が至るところにあり、歴史に興味をもつ人にはあきることがない国である。ニュー・デリーには立派な博物館もあり、インドの過去の偉大さをうかがい知ることができる。展覧会、舞踊祭、映画祭、音楽祭などの催し物もある。主な博物館などは以下のとおり。

**National Museum (国立博物館)**

所在地：Jan path, New Delhi

電話：3019538

開館時間：10：00～17：00 月休

備考：日曜日は無料

**National Gallery of Modern Art (国立現代美術館)**

所在地：Jaipur house, Indian Gate

開館時間：10：00～17：00 月休

**Rail Transport Museum (鉄道博物館)**

所在地：Chanakyapuri

電話：601816

開館時間：9：30～17：30 月休

**Gandhi Smrtiti Museum (ガンディー博物館)**

所在地：5 Tees January Marg

電話：3012843

開館時間：10：00～17：30 祝休

**International Doll's Museum (人形博物館)**

所在地：Bahadur Shah, Zafar Marg

電 話：3316971

開館時間：10：00～18：00 月休

### Craft Museum (工芸品博物館)

所 在 地：Pragati Maidan, Bhairon Road

電 話：3371817

開館時間：10:00～17:00

#### (2) 日本友好協会などの有無と活動内容

デリー日本人会、ボランティア会などがある。

#### (3) その他の文化活動、文化施設

毎年、日本人会で運動会やテニス大会などが実施される。

### 10-5 写真、ビデオ

#### (1) 写真

写真のフィルムは入手可能だが割高である。DPEサービスは普及しており、値段も日本と同じくらいである。

普通サイズの電池は入手可能だが、カメラ用の特殊電池などは入手できないことがある。

#### (2) ビデオ

ビデオデッキは販売されている。録画方式はPAL方式である。マルチシステムのビデオデッキも購入可能である。

#### (3) 各種テープ

当地でも購入可能である。

### 10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

#### (1) 音楽会、コンサート

各種音楽会（インド古典音楽、クラシック、ジャズなど）は、モンスーン明けの9～3月頃までの間に、各地で催される。Indian International CentreやHungarian Cultral Centre などでもクラシック演奏会が催される。

#### (2) コーラス、演奏グループ

1993年9月に、在留邦人によるコーラスグループ「コール・マユール」が発足された（マユールとはヒンディー語で孔雀の意味をもつ。会員は約25名である）。

その他に、地元の音楽愛好者のグループ「デリーアンサンブル」もある。

#### (3) ピアノなど

ピアノのレンタルおよび調律は可能である。ピアノ、バイオリン学習については、

Delhi School of Music (所在地: Nyaya Marg, Chanaktyapuri) がある。

(4) CD、レコードなど

欧米音楽およびインド音楽のミュージックテープ、CDがニュー・デリーで入手できる。CDプレーヤーは現地で購入可能。

(5) 民族楽器

シタール、タブラ、バンスリ (インドフルート) などがあり、次の場所で学ぶことができる。

**Gandharva Maha Vidyalaya**

所在地: Deen Dayal Upadhaay Marg, near ITO

電話: 3233991などで学ぶことができる。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

当地の民芸品の中でも、カシミールの刺繍は特に素晴らしい。また、ラジャスタン地方のミラー刺繍もたいへん美しい。手芸糸などは当地で入手可能である。

(2) 絵画、美術工芸

国立博物館や国立現代美術館で見ることができる。また、British Council Division、Max Mueller Bhawan (ドイツカルチャーセンター) などでも、美術展覧会がよく開催される。また、常設のギャラリーまたは適宜開催される展覧会で、新進の画家の作品を購入することができる。

10-8 趣味

(1) 園芸

インドでは自ら園芸をする人は少なく、庭師にその仕事を任せている。植物は豊富であり、園芸に興味のある人は「ナーサリー」で観葉植物を購入することができる。

(2) 釣り

ニュー・デリーではあまりポピュラーではない。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

最も盛んなスポーツはクリケットである。ナショナルチームもあり、他の国との試合が行われたり、その模様がテレビで放映されたりしている。

ブリッジも盛んである。マージャンは邦人の間で行われている。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

大がかりなレジャーランドは当地にはない。デリー市内、または近郊の主な遊園地は以下のとおり。

**Appu Ghar Amusement Park**

所在地：Pragati Maidan, Mathura Road

電話：3371838

**Fun and Food Village**

所在地：Delhi-Gurgaon Road, Kapashera

電話：5565500

<その他の施設>

**National Zoological Park (動物園)**

所在地：Mathura Road

電話：4618070

**Nehru Planetarium (プラネタリウム)**

所在地：Teen Murti House

電話：3014504

**National Science Centre (科学センター)**

所在地：Bhairon Road

電話：5565500

10-10 スポーツ

(1) テニス

テニスコートはたくさんあり、予約をしてプレーすることができる。主なテニス施設は以下のとおり。

**Delhi Lawn Tennis Association**

所在地：Africa Avenue

電話：6176140、6193955

**DDA Sports Complex**

所在地：Siri Fort

電話：6497482

また、邦人のテニスサークルがあり「Defence Colony Club」のテニスコートにて、ダブルスのゲームを中心とした活動をしている（毎週日曜日の午前中）。

テニス用品などは、品揃えは充分ではないが、現地でも一応揃えることができる。

(2) 水泳

ホテルや地域のクラブのプールを利用することになるが、ほとんどが会員制である。ニュー・デリー日本人学校、およびアメリカン・エンバシー・スクールの生徒は、学校のプールを使用できる。

(3) その他のスポーツ、用具、ウェア

<ボーリング施設>

**Qutab Hotel**

所在地：Shahced Jeet Singh Marg

電 話：6862711

**Leisure Bowl**

所在地：Bawa Potteries Complex, Aruna Asaf Ali Road

電 話：3351730

<その他の施設>

**ヨガ**

所在地：Sri Aurobindo Ashram

電 話：667863

(4) スポーツクラブなど

フィットネスセンターやヘルスクラブが、5つ星ホテルや以下のような施設などにある。会員制であるが、テンポラリーメンバーとして利用できることもある。

**Itkhas Fitness Centre**

所在地：8, Community Centre, New Friends Colony

電 話：6844380

**Scorpio Strength and Fitness Centre**

所在地：55A, Siddharth Chambers (near Azad Apartment), Haus Khas

電 話：6962000

入会手続き、費用などはそれぞれ異なる。また、主なスポーツ用品店は次のとおり。

**Uberoi**

所在地：E-14 Connaught Place

備 考：テニス・ラケット用品

**Pioneer Sports**

所在地：21-F Connaught Place



## Shoes & Sports Shop

所在地：173 Sarojini Nagar Market

## Shoes & Sports

所在地：21-F Connaught Place

### 10-11 子供の遊び

チェス、各種ゲーム（英語表示）、人形、レゴなどの玩具、自転車などは調達可能である。幼児用の玩具は、安全性に若干問題があるので、日本から持参するとよい。

## 11. その他のサービス

### 11-1 金融機関

主な金融機関は次のとおりである。

#### <東京三菱銀行ニュー・デリー支店>

所在地：Jeevan Vihar 3, Sansad Marg (Parliament Street), New Delhi

電話：3360033、3360052、3360135

F A X：3746329

窓口業務時間：月～金10：00～14：00、土10：00～12：00

#### <三和銀行>

所在地：Upper Ground Floor, Mercantile House, 15, Kasturba Gandhi Marg, New Delhi

電話：3318008

F A X：3311356、3315162

窓口業務時間：月～金10：00～14：00、土10：00～12：00

#### <さくら銀行>

所在地：Dr. Gopal Das Bhavan, 28, Barakhamba Road, New Delhi

電話：3737638～41

F A X：3737642

窓口業務時間：月～金9：45～13：45、土10：00～12：00

### 11-2 コンピュータ

パソコン、周辺機器の入手は可能である。ただし、日本語ソフトについては代理店にない場合が多く、シンガポールなどから取り寄せることになり、時間がかかる。Apple代理店はいくつかあり、現地での修理も可能であるが、当地ではIBM系のコン

ピュータが一般的で、有利である。

### 11-3 美容院・理髪店

ホテルや街角に多数ある。料金はまちまちであるが、ホテルではカットが200～250ルピー、パーマは1200～2000ルピー、シャンプーは100～200ルピー程度である。美容・理髪用品は現地製品が豊富にあるが、品質の劣る物もある。愛用している物があれば、日本から持参したほうが安心である。

## 12. 観光

### 12-1 地方旅行上の留意点

旅行の際は、航空券、列車切符、ホテルなどすべて早めに予約し、かつ出発直前に予約の再確認を必ず行うこと。飛行機の場合は、オーバーブッキングがよくあるので、空港には遅くとも出発の1時間前に到着するようにし、早めに搭乗手続きを済ませたほうがよい。行き先によっては、搭乗手続きのあとに荷物チェックとなり、チェックをしていない荷物は機内に積み込んでくれないことがあるので、注意が必要である。

その他の注意すべき点としては、貴重品は手に持つべきである。ただし、ポシェットなどにすべての貴重品を入れることは危険であり、分散して身につけたほうがよい。また、盗難が多いので現金は避け、トラベラーズチェックを利用したほうが安全である。クレジットカードも通用するが、カードを悪用されたケースがあるので、利用明細書の確認が必要である。

また、治安上の理由から、外国人の旅行が制限されている地域があり、注意が必要である。JICA独自の制限が設定されていることもあるので、事務所に相談のこと。

### 12-2 主要観光地・保養地ガイド

インドは歴史があり、国土も広いので観光地は数多くある。しかし、飛行機や列車などの遅延も多いので、旅行計画は、時間に余裕を見ながら慎重に計画する必要がある。また、詳しい情報などは市販の観光ガイドブックを参照し、身近に経験者がいれば、アドバイスしてもらうのがよい方法である。

デリー市内の主な観光地は次のとおりである。

#### <Qutab Minar (クトゥブ・ミナール)>

ニュー・デリーの南郊外にそびえる高さ72.55mの塔（ミナール）。12世紀後半、奴隸王朝のスルタン、クトゥブディーン・アイバクが、デリーにあった最後のヒン

ドゥワー王朝を打倒し、ムスリム支配者として、はじめて壮大な宮廷を営んだ。それらのうち、クトゥブ・ミナールは、ヒンズー教徒に対する勝利を記念して、1193年に建設された。

現在残っている塔は5階からなり、1～3階部分は赤砂岩、4～5階部分は大理石と砂岩でつくられている。クトゥブディーン時代につくられたのは、1階部分だけで、その上は彼の後継者たちが増築、完成させたものである。1803年の地震により、最上部の円屋根が崩れたが、1829年に修復された。

#### <Lal Qila (ラール・キラ/Red Fort) >

ラール・キラは「赤い砦」という意味であり、赤い砂岩の大城壁で囲まれているのでこのような名前がついた。1648年、アグラのタージ・マハルを築いたムガル王朝5代目のシャー・ジャハン王は、都をアグラから新都シャー・ジャハナ・バード(シャー・ジャハン王の町、現在のオールド・デリー)に移したが、ラール・キラは、新都の中の王城として8年をかけて完成された。城門が2つあり、南側がデリー門、正面がラホール門と呼ばれている。観光客はラホール門から入るが、内部はアーケードがあり現在は土産物店となっている。奥には3階建ての内門、ナウバド・カーナ(Naubhat Khana)がある。この門を入ると庭を隔て(Diwan-e-Am/Hall of Public Audience)があり、これをさらに進むとディワニ・カーズ(Diwan-i-Khas/Hall of Private Audience)がある。その他、城内には、真珠のモスクと呼ばれているモティ・マスジット(Moti Masjid/Pearl Mosque)、浴室として使われたハマーム(Hammam/Bathing Area)などの建物がある。

その他、ラール・キラの向かい側にあるインド最大の回教寺院ジャマ・マスジット(Jama Masjid)、アグラのタージ・マハルの原形といわれるムガル王朝2代目王フマユーンとその妃の墓であるフマユーン廟(Humayun's Tomb)などがある。

デリー近郊の主な観光地としては、ウッタル・プラデシュ州のアグラには世界5大観光名所の1つであるタージ・マハルがある。また、ラジャスタン州にはラージ・プート族ゆかりの地が点在し、マハラジャの城、宮殿などが数多く残されている(ジャイプール、ウダイプール、ジョドプール、ピカネール、ジャイサルメールなど)。デリーを北上すると、避暑地で有名なマスーリ、シムラなどがある。

### 12-3 旅行

#### (1) 自動車

地方ではインフラ整備の遅れが大きな問題となっているが、道路がその端的な例である。本格的な高速道路は未だなく、国道でも道幅が狭い。また、運転者のマナーが

悪く、事故が多発しているため、自家用車での旅行は避けたほうがよい。

ガソリンの価格は、1ℓ25.63ルピー（1999年8月現在）である。

## (2) バス

長距離バスによる旅行は、盗難などの危険性があるため、信頼できるバスツアーを選ぶことが肝要である。アグラ、ジャイプールなどへの主な観光ツアー案内は、次のとおりである。

### Government of India Tourist Office

所在地：88, Jan path

電話：3320005

ツアー集合場所：88, Jan path, Hotel Ashok Yatri Niwas

### Ashok Tours & Travels (ITDC)

所在地：305, New Delhi House, Barakhamba Road

電話：3715917

ツアー集合場所：Hotel Kanishka, Hotel Jan path, Lodhi Hotel他

### Delhi Tourism

電話：3363607、3365358

ツアー集合場所：Coffee House, Baba Kharak Singh Marg

## (3) 鉄道

鉄道による旅行は、自動車やバスに比べれば安全であるが、大規模な鉄道事故なども多発している。

鉄道の切符は乗車日の30日前から受付開始である。個人で切符を購入する場合には多大な労力を要する。鉄道切符予約センターはいくつかあるが、ニュー・デリー駅に隣接するNew Delhi Reservation Centreが最も大きく、8:00~20:00まで営業している。また、ニュー・デリー駅の2階にあるInternational Travel Bureauは、外国人専用の鉄道切符窓口であり、外国人特別枠の座席切符が、ドル払いで購入できる。営業時間は7:00~17:00。

なお、ニュー・デリー駅付近には、悪質な旅行業者がたむろしており、これらの業者から切符を購入しないよう注意が必要である。

## (4) 航空機

国営のインド国内航空 (Indian Airline IC) の他、ジェットエア (Jet Airways 9W)、サハラ (Sahara India Airlines S2) など、いくつかの民間航空が運航している。出発時間が突然変更されることがあるので、出発時間の確認を行ったほうがよ

い。また、チェックイン、セキュリティチェックを済ませた後、預け入れ荷物の再確認が必要な場合がある。

#### 12-4 旅行代理店

JICA事務所が利用する旅行代理店は、Anand Travel Related Service(電話：3320186)である。ほかにも多くの旅行代理店があるので、在留邦人やJICA事務所から、信頼できる代理店を紹介してもらうとよい。

#### 12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

個人で予約する場合、トラブルが発生するケースが多い。ホテルによってはJICA割引料金が適用されることもあるので、事前にJICA事務所に問い合わせるとよい。

### 13. 治安、緊急時の心得

#### 13-1 暴動、クーデターなど

##### (1) 一般事情

1999年5月頃から大規模化していたカシミール紛争も、当面の緊張事態は政治的には収束したが、未だ主に実効支配線付近でのインド軍とイスラム系分離主義者ゲリラとの小競り合いは継続しており、事態は予断を許さない。また、アッサム州では、分離主義者ゲリラ活動が激化しており、鉄道や道路などの爆破事件が続いている。また、デリーでも上記の勢力の他、パンジャブ分離主義者などの過激派による無差別爆弾テロ事件も頻発している。

上述のカシミール紛争、アッサム州民族間対立、パンジャブ州シーク教徒問題他、ヒンズー教至上主義者とイスラム教徒の宗教紛争、最近では、オリッサ州の村落部での過激ヒンズー教徒によるキリスト教徒、キリスト教関連施設焼き討ち事件など、多様性国家の宿命であるコミュニズムに起因する暴動は後を絶たず、インド全体としては、ここ1～2年、治安は悪化の傾向にある。これらのテロは、外国人をターゲットにすることはほとんどないが、一般の市民を巻き込む無差別な犯行であることも多く、被害に巻き込まれないよう日頃からの注意が必要である。特に、不審物、車の下回り点検、テレビ、ラジオ、新聞などの情報に注意することが必要である。

##### (2) 緊急時の連絡

インド事務所作成の緊急連絡網に従う。なお、緊急連絡網は適宜改訂しているので、常に最新の物を使用すること。連絡網は、第三者には渡らないよう注意が必要である。避難方法などについては、インド事務所作成の「安全対策の手引き」中の「緊

急事態対応要領」参照のこと。

### 13-2 強盗、盗難

#### (1) 一般的治安状況など

邦人を巻き込んだ最近の事件として、邦人男性旅行者が、悪質旅行者に殺害される事件も起きた。このような外国人旅行者をねらった事件のほかに、デリーでは、ここ1～2年、外国人を含む地元の裕福な家庭をねらった押し込み強盗や、路上強盗、殺人事件などが増加している。

#### (2) 防犯対策

デリーの治安は悪化しているが、個人レベルで注意し、油断さえしなければ、かなりの事故・犯罪を未然に防げられると思われる。家屋などの防犯対策については、上述の「安全対策の手引き」などを参考にし、日頃から安全対策への意識をもって行動することが重要である。なお、近年デリーでは、一般住宅街で使用人がらみの犯罪（盗難がほとんど）が散発している。デリー警察では、使用人を新たに雇う場合、使用人の顔写真、住所、本籍を最寄りの警察に届け、身元確認することをすすめている。

#### (3) 被害時の心得

強盗などに遭った場合は、決して抵抗しないこと。安全を第一に考え、逆らわず、冷静に相手を刺激しないよう対応することが肝要である。

### 13-3 火災、風水害、地震

#### (1) 一般的災害発生状況など

ニュー・デリーにおいては大きな災害は起こっていないが、雨期の降雨による道路冠水などは日常茶飯事である。インド東海岸、南部においては毎年「サイクロン」が襲来し、大きな被害が出ている。

#### (2) 防災対策

前述「安全対策の手引き」参照。

#### (3) 被災時の心得

生命の安全を第一に考え、常に1つ先の対応を打つよう心がけることが大切である。

## 14. 出入国手続きおよび帰国手続き

### 14-1 入国時

#### (1) 空港施設概要

インディラ・ガンジー国際空港の空港ビル内に入ると、エスカレーターがあり、それを下りると入国審査ゾーンとなっている。そこで、旅行エージェントの職員がJICAのプラカードを持って出迎えてくれる。入国審査後、X線による手荷物検査を受け、預託荷物をターンテーブルから降ろし、税関検査を受ける。申告がない場合は緑の帯へ進み、ビデオカメラ、コンピュータ、ワープロなどを保持している場合は赤の帯へ進む。電気製品の持ち込みについてはチェックが厳しいが、「出国時に持ち帰る」と申告すれば問題はない。

#### (2) 入国手続き書類

入国審査には、入国カード、旅券、査証、税関申告書（ある場合）が必要である。

#### (3) 入国審査

特に問題はない。ここ数年、入国審査にかかる時間も少なくなり、比較的スムーズである。審査の際に、通関用カード（入国カードの半券）が戻されるので確認し、出口で係員に渡す。

#### (4) 税関検査

通常、申告のない場合は、旅行カバンを開けて検査されることはない。

#### (5) 空港内での留意点

該当情報なし。

#### (6) 空港からの主な交通手段

JICA関係者の場合は、ハイヤーが空港まで迎えに来てくれる。

#### (7) その他の留意点

空港には、プライベートタクシーカウンターがあるが、必ずしも安全とはいえない。また、空港にたむろしているタクシー運転手や、旅行業者が絡んだ盗難事件が、旅行者を対象として散発しているのので、たとえ私用であっても、可能な限り空港からの送迎を確保しておくことが望ましい。送迎は、事前にJICA事務所で予約可能である。

### 14-2 出国時

#### (1) 出国時の概要

空港へ入る際、警官から「搭乗券」の提示が求められる。空港に入った後、空港内銀行にて空港税（SARRC諸国への出国の場合は1人150ルピー、その他は1人500ルピー）を支払い、その領収書を持って利用する航空会社のカウンターへと進む。航空

会社によっては、機内持ち込み荷物をX線に通したあとで、搭乗手続きをする場合もある。搭乗手続きの際には、必ず手荷物用のタグをもらい、すべての手荷物に付けておくこと（セキュリティチェックで必要となる）。また、搭乗手続きを終えたら出国カードに必要事項を記入し、出国審査を受ける。そこで旅券と搭乗券にスタンプを押してもらい、次に税関検査となる。その後セキュリティチェックへと進み、手荷物タグにスタンプを押してもらう。

(2) 出国手続き上の留意点

持ち出し可能な品目について確認すること。金、銀については、その価値が10万ルピー以内に限り、自由に持ち出し可能であるが、それ以上については、インド連邦準備銀行（RBI）の許可書が必要となる。また、象牙、鹿皮、虎皮製品その他、シャトーシュヨール（チベット羊ののどの毛でつくられる）の持ち出しも禁止されている。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

該当情報なし。

(2) 車の処分

免税車はすべて、インド政府または後任者などの「免税特権保持者」に売却することになる。

(3) 家財道具の処分

通常は、後任者に売却する。家財道具買い取り業者もある。

(4) 住宅の明け渡し

入居前の状態にして明け渡す。

(5) 外貨持ち出し規制

インド人の一般旅行の場合、外貨持ち出し上限は2000ドルである。その内現金は500ドルまでで、T/Cは1500ドルまで持ち出し可能である。

外国人の外貨持ち出し上限額は1万ドルであり、その内現金は2500ドルまで、T/Cで7500ドルまで持ち出し可能である。ただし、外国からのインド国内銀行への外貨送金分は、送金シートがあればすべて持ち出しが可能である。



## 15. 私財の輸送、引き取り、購入

### 15-1 家財道具

#### (1) 輸送業者

主な輸送業者は以下のとおりである。

**Nawab Packers (ナワーブ・パッカーズ)**

所在地：F-16, Shankar Market, Connaught Circus, New Delhi

電話：3314669、3314665、3312665

#### (2) 輸入手続き

空輸の場合は、インディラ・ガンジー国際空港か、任地の最寄りの国際空港へ送る。無税通関手続きはJICA事務所で実施後、輸送業者に依頼する。海送の場合は、ボンベイあるいはカルカッタとなる。デリーが任地の場合はボンベイに送り、無税通関手続き終了後、業者がデリーまで輸送する。海送の場合、本邦積み出しから引き取りまで約2～3カ月ぐらいかかる。

#### (3) 輸入荷物の受取り港

家具は現地で購入が可能である。また、電化製品（冷蔵庫、冷凍庫、洗濯機、エアコン、マルチシステムテレビ、ビデオデッキなど）については、近年は性能のよい現地製の物が出回っている。

#### (4) 家財道具の購入

該当情報なし。

### 15-2 自動車

#### (1) 一般状況

インド政府から「要請書 (A1フォーム)」が出る専門家の場合は、自動車の免税輸入が可能である。しかし、1991年の新経済政策開始後、外国自動車資本の進出が著しく、現地生産車の性能も上がって種類も増えており、今後さらに新車種が市場に出回ることになるので、メンテナンスやスペアパーツ入手の面から、現地生産車の購入を検討するのもよい。

#### (2) 輸入手続き

JICA事務所に相談すること。

#### (3) 任国での購入

現在、市場に出回っている現地生産主要乗用車、および外国資本（（ ）内はインド資本パートナー）と価格は、次のとおりである（1999年7月現在）。

### マルチ 800cc

外国資本：スズキ（インド政府）

価格：約20万ルピー

### マルチ Zen (1000cc)

外国資本：スズキ（インド政府）

価格：（標準-LX）30万5000ルピー

（デラックス-VX）35万7000ルピー

### マルチ エステイーム (1300cc)

外国資本：スズキ（インド政府）

価格：（標準-LX）48万8000ルピー

（デラックス-VX）55万5000ルピー

（オートマチック-AX）61万6000ルピー

### シエロ GLE (1500cc)

外国資本：大宇（DCM）

価格：56万5000ルピー

### オベル・アストラ (1600cc)

外国資本：GM（ヒンドスタン・モーター）

価格：71万5000ルピー（Petrol）

82万3000ルピー（Diesel）

### メルセデスE220 (2500cc)

外国資本：メルセデス・ベンツ（タタ）

価格：252万ルピー（Petrol）

272万5000ルピー（Diesel）

### 三菱ランサー (1468cc-Petrol、1998cc-Diesel)

外国資本：三菱

価格：76万6000ルピー（Petrol）

87万ルピー（Diesel）

### ホンダシティー (1300cc-LXI、1500cc-EXI)

外国資本：ホンダ、シエール

価格：（LXI）68万4000ルピー

（EXI）77万2000ルピー

### フォード (1600cc-Petrol、1800cc-Diesel)

外国資本：フォード (マヒンドラ)

価格：76万2000ルピー (Petrol)

79万7000ルピー (Diesel)

### タタエステート (1948cc)

国産：タタ

価格：53万3000ルピー

### タタサファリ (2000cc)

国産：タタ

価格：82万8000ルピー (四輪駆動)

77万4000ルピー (二輪駆動)

### タタインディカ (1400cc)

国産：タタ

価格：27万5000ルピー (Petrol)

31万ルピー (Diesel)

### アンバサダーBE

国産：ヒンドスタン・モーター

価格：33万ルピー

### コンテッサー

国産：ヒンドスタン・モーター (1800-Petrol、2000-Diesel)

価格：48万7000ルピー (Petrol)

51万3000ルピー (Diesel)

#### (4) 自動車登録

業者に依頼することになる。

#### (5) 免許証取得

ナンバープレートは3種あり、黒が一般車両、青が外交機関および国連機関、白がタクシーである。免許は、日本の免許証を持って警察に行けば、約1カ月で現地の免許を作成してくれる。

#### (6) 保険、税金

保険料は高いが、事故が多いため加入は必須である。主な保険会社は次のとおりである。

**The New Delhi Assurance Company Ltd. (ニュー・デリーアシュアランス)**

所在地：C-19, Vasant Vihar Market, Paschimi Marg, New Delhi

電話：614290、6877316

**16. 社交**

16-1 風俗習慣

パーティーでは女性はサリー、パンジャブドレス、男性は背広、サファリスーツなどが一般的。邦人の場合は、女性はワンピース、スーツ、男性は背広で十分である。

16-2 パーティーでの留意点

開始が19:30~20:00頃からであり、それにもなつて終わる時間も遅い。マナーなどは常識の範囲で判断すればよい。

16-3 来客時の留意点

特別に留意すべき点はない。常識の範囲で判断すればよい。

16-4 訪問時の留意点

特別に留意すべき点はない。常識の範囲で判断すればよい。

16-5 禁止されている言動

特別に留意すべき点はない。常識の範囲で判断すればよい。

**17. 任国官公庁**

**Ministry of Finance (大蔵省)**

所在地：North Block-1, New Delhi

**Ministry of External Affairs (外務省)**

所在地：South Block-11, New Delhi

**Planning Commission (計画委員会)**

所在地：Yojana Bhawan-1, New Delhi

**Ministry of Industry (工業省)**

所在地：Udyog Bhawan-11, New Delhi

**Ministry of Health and Family Welfare (保健省)**

所在地：Nirman Bhawan-11, New Delhi

**Ministry of Human Resources Development (人的資源省)**

所在地：Shastri Bhawan-1, New Delhi

**Ministry of Textile (繊維省)**

所在地：Udyog Bhawan-11, New Delhi

**Ministry of Railways (鉄道省)**

所在地：Rail Bhavan-1, New Delhi

**Ministry of Surface Transport (陸上運輸省)**

所在地：Parivahan Bhavan-1, Sansad Marg-1, New Delhi

**<インド政府官庁の執務時間>**

9：30～17：00、または10：00～17：30（通常月曜日～金曜日）。

昼食時間は機関により異なるが、通常13：00～14：00。

**18. 在外日本関係機関など**

**在インド日本大使館**

所在地：50-G, Chanakyapuri, New Delhi

電話：6876564、6876581～3

FAX：6885587

執務時間：冬時間（10～3月）は8：30～17：15。ただし、第2および第4水曜は8：30～13：00。夏時間（4～9月）は8：30～17：00。ただし、水曜は8：30～13：00、昼休みは13：00～14：30

休館日：土・日

**日本広報文化センター**

所在地：32, Ferozeshah Road, New Delhi

電話：3329803、3323778、3329838

FAX：3327803

執務時間：月～金は9：00～17：30、昼休みは13：00～14：30。図書館は火～土の10：00～18：00

**JICAインド事務所**

所在地：2nd Floor, DLF Centre, Sansad Marg (Parliament Street), New Delhi

電話：3311990～4

FAX：3311996

執務時間：月～金 9：00～17：00、昼休みは13：00～14：30

### JBICニュー・デリー駐在員事務所

所在地：2nd Floor, DLF Centre, Sansad Marg (Parliament Street), New Delhi

電話：3714362～3、3717090

FAX：3715066

執務時間：月～金 9：00～17：00、昼休みは13：00～14：30

所在地：Suite No. 250, The Oberoi, Dr. Zakir Hussain Marg, New Delhi

電話：4395039～40、4395245

FAX：4395041

執務時間：月～金 9：00～17：30、昼休みは13：00～15：00

### JETROニュー・デリー事務所

所在地：5th Floor, World Trade Centre, Barakhamba Lane, New Delhi

電話：3312194、3712268、3713369

FAX：3313453

執務時間：月～金 9：00～17：30、昼休みは13：00～14：30

### 日本交流基金ニュー・デリー事務所

所在地：10, Jor Bagh, New Delhi

電話：4652962～3

執務時間：月～金 9：30～17：30、昼休みは13：00～14：30

### 日本航空

所在地：Chandralok Building, 36, Janpath, New delhi

電話：3327606、3327608

FAX：3320586、3324244

執務時間：月～金 9：00～17：45、昼休みは13：15～13：45

窓口業務時間：月～金 9：45～13：45、土 10：00～12：00

### 全日空

#### <全日空ニュー・デリー支店>

所在地：New Delhi Office c/o The Oberoi, Dr. Zakir Hussain Marg

電話：4395030

備考：邦人スタッフ在駐

#### <ニュー・デリー営業所>

所在地：N-42, Connaught Circus

電話：3736980、3736982～5、3736945

FAX：3310012

執務時間：月～土9：00～17：30、昼休みは13：00～14：00

窓口業務時間：月～金9：00～17：45、昼休みは13：15～13：45

## 19. 地方都市

### (1) ムンバイ (ボンベイ)

ムンバイ市は、アラビア海に臨むインド西海岸に位置し、マハラシュトラ州の州都である。1991年の調査によると、ムンバイの人口は約1257万人で、インド最大の都市である。ボンベイには、インドの中央銀行であるインド準備銀行 (RBI)、インド工業開発銀行 (IDBI)、インド工業投資公社 (ICICI) などの金融機関の本部があり、また、インド最大のボンベイ証券取引所があるなど、インドの商業・経済の中心地である。

### (2) コルカタ (カルカッタ)

西ベンガル州の州都「コルカタ」は、インド亜大陸の東部、ベンガル湾口近くのガンジス河口デルタ地帯に位置し、インドの東玄関口として、西のムンバイと並ぶ大都市である。1991年の国勢調査によれば、コルカタの人口 (ハウラーなどの隣接諸地区を含めた大コルカタ) は1092万人で、ムンバイに次ぐ第2の都市である。17世紀に英国が東インド会社商館を設置して以来、1911年にニュー・デリーへ首都が移されるまで、英領インドの首都として発展を遂げた。

### (3) チェンナイ (マドラス)

タミル・ナドゥ州の州都チェンナイは、ベンガル湾に面する港町で南インド最大の都市である。人口は約536万人 (1991年国勢調査)。インド4大都市 (デリー、ボンベイ、カルカッタおよびマドラス) の中でも西洋化されていない保守的な都市といわれている。人種は、北インドのアーリア系に対し、インダス文明を築いたといわれているドラヴィダ系で、言語はタミル語 (および英語) が使用され、反ヒンディー語傾向が強く、まず通じない。

### (4) バンガロール

カルナタカ州の州都バンガロールは、人口約649万人 (1991年国勢調査) の南インドで最も西洋化された都市である。標高が900m以上のため、1年を通し平均気温が20～27℃以下であり、他の都市に比べ快適な気候であるため、英国人の居留地があった。近年はコンピュータ産業が発展し、インドのシリコンバレーと呼ばれている。その他、国立の

研究機関（科学研究所、宇宙研究所など）も多く存在する。

なお、平成11年8月現在、長期専門家が滞在している都市は以下のとおりである。

<デリー>

人数：2名

備考：高速道路の維持管理、およびコンバインドサイクル発電技術。いずれも個別専門家

<コルカタ>

人数：2名

備考：新興下痢症対策プロジェクト

<マイソール>

人数：6名

備考：二化性養蚕技術実用化促進計画プロジェクト

<コーチン>

人数：3名

備考：船体品質管理、船体建造技術および船舶機装。いずれも民活個別専門家



## 任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などのJICA関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、特に生活情報を提供するものです。

専門家などのJICA関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されておりますので赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

### ……………アジア地域……………

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア (ジャカルタ、バンドン、ウジェンバンダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

### ……………中近東地域……………

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタール
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、アムマン)
16. イエメン (サナア)

### ……………太平洋地域……………

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. バラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

### ……………欧州地域……………

1. カザフスタン
2. キルギス
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア
9. チェッコ
10. ルーマニア

### ……………アフリカ地域……………

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. 象牙海岸共和国
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ
32. エリトリア
33. 南アフリカ
34. ジブティ
35. ウガンダ
36. ブルキナ・ファソ

### ……………中南米地域……………

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ、ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア
21. ジャマイカ
22. エル・サルヴァドル

---

「任国情報（インド）1999年度版」

平成12年4月30日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357

---

